

令和7年度人生100年時代づくり・地域創生ソフト事業総括

1. 事業の名称

未来に向けた果樹の里山プロジェクト事業

2. 事業の目的

耕作放棄地を果樹園にする活動を始めて10年となる。果樹園はいちじく、柿、栗、すもも、プルーン、りんご、キウイなど約900本の果樹とそば、さつま芋など4.5haに広がっている。地域の人々を中心に行行政、地区公民館、NPO法人、大学生との協働で進めているが、地域関係者の高齢化が進み、事業を継続することも懸念されている。

今後の10年を、活動の中心となっている高齢者の生きがいとなり、小さくとも地域に経済循環を生み出し、子どもや若者も含めた多様な人々の交流の場となる「未来に向けた果樹の里山プロジェクト」を推進する。

事業を推進するにあたり下記の項目を実現することを目指した。

(高齢社会対策大綱) 年齢に関わりなく希望に応じて活躍し続けられる経済社会の構築。

(少子化社会対策大綱) こどもや若者、子育て当事者の視点を尊重し、その意見を聴き、対話しながら、ともに進めていく。

(デジタル田園都市国家構想総合戦略) これまでの地方創生の取組についても、改善を加えながら推進する。

3. 実施方法

- 果樹園として活用している4.5haには果樹約900本とさつま芋、そばを育てているが、初期に植えたいちじく、栗の苗が植替えを必要とする時期となっている。いちじくは横一文字式など生産性の高い果樹園にすることも必要である。また先進地を視察し果樹園の管理、体験農園の機能などを学ぶ機会を作る。

主要な人々の高齢化により作業の効率化や生産性の向上、により高齢者の継続的仕事創出となる。事業継続を進めるための果樹園機能のブラッシュアップを行い、これからの10年に取り組む。

- 果樹の里山ではこどもや若者の交流、体験をこれまでも大阪国際大学と協力して取り組んでいるが、年に1〜2度の機会にとどまっている。交流、体験を定期的に行うとともに継続できる仕組みを考えることが必要。こどもたちが自然や果樹の実りに触れる体験を増やし、大学生が企画し地域の人々がサポートする仕組みを構築する。大学生との交流や交流体験事業は関係人口、交流人口の増加にも繋がる。

- 果樹の里山では公共空き施設の活用を進めている。行政より借り受けリノベーションを行い交流の場と加工生産施設となっている。空き施設になる前は年間10日程度の利用が、現在「里山ベース」と名付け年間100日以上を活用を生み出している。また果樹の里山に視察に来られる方も増加しており、果樹の実りや加工食品を活用した食と農業、地域づくりの研修を構築し、研修施設としての機能を充実させる。

- 果樹の里山ではいちじく、栗、柿、すももなどを育てているが、実りを有効活用するためにも経済循環と商品開発が必要である。実りを活かす商品開発とパッケージ等のデザインに取り組むことで付加価値向上に努める。また果樹の里山や開発した商品を県内外に紹介する機会も積極的に作る。

4. 事業内容及び実施状況

- いちじく・栗等の老木植え替え

◇ いちじく 159 本、栗 40 本の植え替えを行った。



◇ いちじくの横一文字式への整備などにより、果樹の里山を高齢者だけではなく後継者となる次の世代も継続的に関われる環境を整えた。









◇ 滋賀県への先進地視察を行い果樹園の管理、体験農園の機能などを学んだ。





■ 里山体験・学び・交流プログラム作成

- ◇ 大学生や子どもと一緒に企画し、交流・体験ができる機会を年間通して創出することを検討した。
- ◇ 8月から11月の期間にいちじく狩り、栗拾いの体験
- ◇ ピザ作り、ジャム・ドライフルーツ作りなど実りを活かした食体験。
- ◇ 耕作放棄地活用、里山フットパス、農山村の拠点づくり、地域と大学の協働などの地域づくりなど、大学生・地域行政・NPO法人・地区公民館と協力して8企画を検討。





◇ 今後10年継続できる農地対策、地域づくりも含めた交流体験事業を作りパンフレットを製作した。



里山プロジェクトの活動拠点「里山ベース」は、閉鎖中の鳥取市所有施設をリノベーションしました。閉鎖前は年間約10日の利用が、100日以上活用される地域の拠点となっています。

農山村の拠点づくり



交流 流 び

鹿野町河内地区では耕作放棄地を果樹園にしました。果樹の商品開発等による事業化も進めています。地域、農地を活かすことを学びます。

耕作放棄地活用

里山を散策しながら地域の魅力を感じます。果樹園を楽しむ、水遊びや地域の歴史・文化、自然の豊かさを感じ、楽しみながら歩くことができます。

河内・里山フットパス



里山プロジェクトは地域と大学生の協働事業でもあります。大阪国際大学と共に里山まつりや体験企画をしており、大学との交流、協働を学びます。

地域と大学の協働

イチジクは9〜10月に実ります。実たいちじくを自分で収穫しましょう。いちじくはその場で食べることができ、新鮮な果実の味わいを堪能できます。



栗は9〜10月に実ります。栗が落ちるので実を拾います。秋の味覚狩りの楽しさ、旬の味を堪能できます。自分で拾った栗は持ち帰ることができます。



體驗



果樹の里山にはピザ窯があります。牛
地をのばして、里山のいちじくや柿、
チーズをトッピングしてピザを作りま
す。ピザ窯で焼いた手作りピザは最高
に美味しいです。

イチジクのジャムやドライフルーツ
柿のドライフルーツ、焼き栗など里山
の果実を使った美味しい加工品作りが
楽しめます。作った加工品は持ち帰る
ことが出来ます。



- ◇ 食を体感しながら農地対策、地域づくりの研修施設としての機能を高める為、プロジェクトなどを整えた。
- ◇ 鹿野町、果樹の里山への視察者に、果樹の里山プロジェクトや体験事業をプロジェクトを使って紹介。



■ いちじく、柿、すもも、さつま芋などの商品開発

- ◇ いちじくの「いちじくドライ」製品化と販売促進
- ◇ 柿の「柿ドライ」の製品化に取り組む。
- ◇ すももの「すももジャム」の商品化を研究。
- ◇ さつま芋は「干し芋」の商品化を進めた。



- ◇ 商品のパッケージデザイン、成分表示シール等も同時に取り組んだ。



果樹の里山 干し芋		栄養成分表示 (100g 当たり)	
〔名 称〕	干し芋	熱量	303kcal
〔原材料名〕	さつまいも (鳥取市鹿野町産)	たんぱく質	0.6g
〔内 容 量〕	100g	脂質	71.9g
〔保存方法〕	直射日光、高温多湿を避け常温保存	炭水化物	3.1g
〔製 造 者〕	佐々木千代子 鳥取市鹿野町河内 2711-11	食塩相当量	0g

※この表示値は目安です。

〔賞味期限〕

※賞味期限は、表示されている方法で未開封の状態
保存した際に品質が保たれる期限です。
※開封後は、早めにお召し上がりください。
※品実保持のため、脱酸素剤を封入しております。
無害ですが、食べられませんのでご注意ください。

4 582590 740031



- ◇ 果樹の里山を紹介し商品開発品を県内外へ販売するための販路を作ることにも取り組んだ。大阪への販路開拓では、大阪国際大学のレストランにお願いし、早速販売を開始して頂いた。また鳥取市のアンテナショップ「麒麟のまち」に訪問し、店頭に並ぶいちじくジャムの確認と担当者にヒアリングを行った。また来年度に向けて干し芋のリサーチもお願いした。





5. 事業の効果

- いちじく・栗等の老木植え替えをいちじく 159 本、栗 40 本の計 199 本植え替えを行った。またいちじくの横一文字式への整備などにより、果樹の里山を高齢者だけではなく後継者となる次の世代も継続的に関われる環境を整えた。
 - ◇ 滋賀県への先進地視察を行い果樹園の管理、体験農園の機能などを学んだ。
 主要な人々の高齢化により作業の効率化や生産性の向上、により高齢者の継続的仕事創出となる。事業継続を進めるための果樹園機能のブラッシュアップを行い、これからの 10 年に取り組む。
- 里山体験・学び・交流プログラム作成
 - ◇ 大学生や子どもと一緒に企画し、交流・体験ができる機会を年間通して創出することを検討した。
 - ◇ 8 月から 11 月の期間にいちじく狩り、栗拾いの体験、ピザ作り、ジャム・ドライフルーツ作りなど実りを活かした食体験。耕作放棄地活用、里山フットパス、農山村の拠点づくり、地域と大学の協働等の地域づくりなど、大学生・地域行政・NPO 法人・地区公民館と協力して 8 企画を検討。
 - ◇ 今後 10 年継続できる農地対策、地域づくりも含めた交流体験事業を作りパンフレットを製作し、今後の果樹の里山事業に活かしていきたい。
- 「里山ベース」の交流、研修施設としての機能を充実
 - ◇ 食を体感しながら農地対策、地域づくりの研修施設としての機能を高める為、プロジェクターなどを整えた。果樹の里山プロジェクトや体験事業をプロジェクターを使って紹介。体験・交流に加え、果樹の里山が取り組んできた耕作放棄地対策や大学連携などを他地域へ紹介し、活動のヒントとして頂きたい。
- いちじく、柿、すもも、さつま芋などの商品開発
 - ◇ いちじくの「いちじくドライ」製品化と販売促進、柿の「柿ドライ」の製品化、すももの

「すももジャム」の商品化を研究、さつま芋は「干し芋」の商品化を進めた。

- ◇ 商品のパッケージデザイン、成分表示シール等も同時に取り組んだ。
- ◇ 果樹の里山を紹介し商品開発品を県内外へ販売するための販路を作ることにも取り組んだ。
開発した商品の販売促進を今後も進め、果樹の里山事業の継続に繋げたい。

6. その他（感想等）

- 本事業により念願であったいちじく・栗等の老木植え替えが出来た。またいちじくの横一文字式への整備などにより、果樹の里山を高齢者だけではなく後継者となる次の世代も継続的に関われる環境を整えることが出来ました。
- 作業の効率化や生産性の向上により高齢者の継続的仕事の創出となったと感じます。
- 里山体験・学び・交流プログラム作成により、交流・体験ができる機会を年間通して創出することに繋がります。
- 高齢化は進みますが、後継者の働きやすい環境も少しづつ整い、新たな動きが生まれることを期待したいと思います。